



畜産研通信

平成26年度第3号

【酪農研究部】—学校教育と試験研究を結ぶ先端技術研修会—

酪農研究部(恵那市)において、1月23日(金)に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている岐阜農林高校の動物科学科2年酪農専攻生15名を対象に受精卵移植等先端技術研修会が開催されました。

午前中は、研究員が超音波診断装置で高能力乳用牛の卵巣の画像を見ながら、針で卵子を吸引する様子を見学した後、生徒が交代で吸引した卵子の検卵を実体顕微鏡下で行いました。卵子の扱いに慣れている生徒もいたこともあり、無事卵子を探し出すことができました。

午後からは実際に酪農の現場で行われている受精卵の融解方法や雌雄判別技術の方法について受精卵を使いながら実習を行いました。性判別用のサンプルを採取するためのバイオプシーの実習では研究員顔負けの技術を披露する生徒もいました。

受精卵関係の実習の後には、牛舎で「牛の見方」についての講義を行いました。

大変寒い日であったにも関わらず、盛りだくさんの内容に、全ての生徒がとても熱心に取り組んでいました。将来、参加した生徒の中から酪農現場で活躍する技術者や有能な科学者が出てくることを期待しています。



【養豚・養鶏研究部】—消費者の方々への研究成果の紹介—

2月8日(日)に農産物直売所「きなあつ瑞浪(瑞浪市)」で開催された第3回ボーンポーク勉強会において、消費者の方々に当所の研究成果品である、種豚「ボーンブラウン」と肉質を改良する飼料の概要と、これらの研究成果品を用いて生産されている銘柄豚肉「ボーンポーク」の特徴について説明しました。

参加者の方々からは、輸入豚肉と銘柄豚肉との脂質の違いや給与している飼料の違いについて質問やご意見を頂き、岐阜県産豚肉への志向が高いことが分かりました。

頂いた貴重なご意見を参考にしながら、これからも消費者の方々に安全、安心でおいしい岐阜県産豚肉を提供するための研究開発を推進したいと思います。



【養豚・養鶏研究部 関試験地】

－国内で高病原性鳥インフルエンザが流行し、奥美濃古地鶏を卵で緊急避難－

高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）は昨年末から国内各地で発生があり新聞紙上を騒がせています。HPAIはウイルスの感染によって、突然死や呼吸器障害と産卵率の低下や停止を引き起こす養鶏業界にとって非常に厄介なウイルス性の伝染病です。国の防疫マニュアルでは、この病気が発生した場合は、原則としてワクチンを使用せず、飼養鶏の全羽淘汰により防疫を進めることとされています。



県内でも、昨年12月20日にHPAI(H5N8亜型)が可児市の野鳥(おしどり)で発生がありウイルスの蔓延が危惧されているなか、所内では試験研究に飼養している鳥を伝染病から守るため、万全の防疫体制を施しています。

当所では天然記念物の「岐阜地鶏」を活用して「奥美濃古地鶏」(古地鶏)を平成4年に開発、その後も所内では古地鶏生産のもとになる種鶏(♂鶏、♀鶏)を飼育しながら消費者・生産者ニーズに合わせて改良を加えています。「奥美濃古地鶏」は現在日本有数の銘柄鶏として、民間企業を通じて年間16万羽(H25)が生産されています。

古地鶏を生産するためのもとになる種鶏は、岐阜県オリジナルの鶏群で他から供給してもらうことはできません。また、再度種鶏を作出するには数年単位の時間が必要になります。そのため、当所では防疫体制の一環として、これらの種鶏の有精卵を遠く離れた当所飛騨牛研究部(高山市)へ緊急避難させ、万が一に備えています。

種卵の緊急避難輸送は昨年12月から3月までに計10回、1回あたり有精卵3~500個、実施しています。また、これに合わせて、長期保存種卵の孵化に関する検証実験をしています。

【飛騨牛研究部】－「第1花園」を利用して造成された種雄牛－

これまでに岐阜県では、飛騨牛の肉質を損なうことなく、体積や種牛性(哺育能力など)の改良が期待できる種雄牛として、青森県の種雄牛「第1花園」を利用して種雄牛を造成してきました。造成した5頭(花安鶴、立花園、福平国、花福桜、義正福)のうち、関係各位の御協力により、これまでに4頭の現場後代検定結果が判明しておりますので紹介します。なお、これらの種雄牛を交配して生産された娘牛は母体として活躍することが期待されます。(義正福については、今後枝肉結果が判明してくる見込みで、平成27年4月に枝肉研究会の開催を予定しております。)

	花安鶴			立花園			福平国			花福桜※		
	去勢	雌	合計(平均)									
頭数	20	5	25	15	5	20	15	11	26	13	5	18
出荷月齢	27.5	29.7	27.9	28.0	28.6	28.2	27.6	28.5	28.0	28.1	28.5	28.2
枝肉重量(Kg)	475.6	462.9	473.1	456.9	420.7	447.8	492.2	439.6	470.0	471.0	395.6	450.1
ロース芯面積(cm ²)	53.2	51.8	52.9	55.8	49.4	54.2	54.5	57.6	55.8	60.8	55.2	59.2
バラ厚(cm)	7.9	7.7	7.9	7.8	8.3	7.9	8.2	8.2	8.2	8.0	7.5	7.9
皮下脂肪厚(cm)	2.8	3.6	2.9	2.7	3.8	3.0	2.5	2.6	2.6	3.0	3.6	3.1
歩留基準値(%)	73.2	72.2	73.0	73.7	72.7	73.5	73.6	74.6	74.0	74.1	73.4	73.9
BMS No.	6.8	7.2	6.8	7.3	6.6	7.1	8.0	7.7	7.9	8.6	8.0	8.4
BCS No.	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	3.7	3.6	3.7	3.7	4.0	3.8

※ 花福桜は、現場後代検定実施中であり、最終的な現場後代検定結果ではありません。



「花安鶴」(第1花国-平茂勝-安福)

産肉能力の育種価解析から、枝肉重量、脂肪交雑が良好である結果が出ております。産子は発育良好であり、また体型の改良が期待されます。



【IARS 異常症保因牛】

「立花国」(第1花国-平茂勝-安福)

産肉能力の育種価解析から、枝肉重量、脂肪交雑、オレイン酸が良好である結果が出ております。なお、IARS 異常症保因雌牛との交配は避けてください。



「福平国」(第1花国-平茂勝-安福)

現場後代検定から枝肉重量、脂肪交雑、肉色、腿の肉質において良好な結果が出ております。産子は発育良好であり、資質も優れております。



「花福桜」(第1花国-福之国-福桜)

現場後代検定から、脂肪交雑、肉色において良好な結果が出ています。現段階では、4・5等級率が100%であり、安定した結果が得られております。

畜産研究所ホームページ <http://www.livestock.rd.pref.gifu.lg.jp>

- 飛騨牛研究部 506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1
Tel 0577-68-2226 Fax 0577-68-2227 Email boxbeef@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 酪農研究部 509-7601 恵那市山岡町久保原
Tel 0573-56-2769 Fax 0573-56-2974 Email boxdairy@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 養豚・養鶏研究部 505-0037 美濃加茂市前平町 3-8
Tel 0574-25-2185 Fax 0574-28-4132 Email boxswine@livestock.rd.pref.gifu.jp
- 養鶏・養鶏研究部関試験地 501-3924 関市迫間 2672-1
Tel 0575-22-3165 Fax 0575-22-3164 Email boxpoultry@livestock.rd.pref.gifu.jp